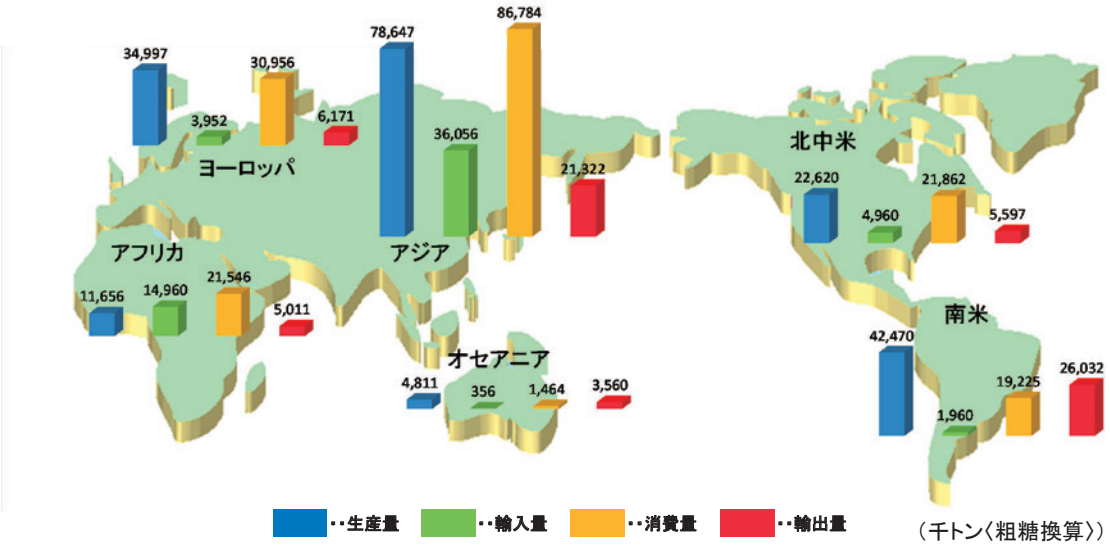
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　竹谷　亮佑

1．世界の砂糖需給（2018年６月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか22カ国を含む。

農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社であるLMC Internationalの2018年６月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（10月～翌９月）の世界の砂糖生産量は、１億9520万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比8.1％増）と前年度をかなり上回ると見込まれている（表１）。これは、アジアやヨーロッパなどの主要生産地域において生産が増加するためである。アジアはインドやタイにおける潤沢な降雨により、ヨーロッパはＥＵの生産割当廃止を受け、それぞれ同31.4％増、同22.7％増と大幅な増加が見込まれている。

同年度の世界の砂糖消費量は、１億7881万トン（同0.4％減）と前年度をわずかに下回ると見込まれている。最大の消費国であるインドや中国が、経済成長などを背景に、それぞれ同2.4％増、同0.5％増と堅調に増加するものの、EUやブラジルが、それぞれ同2.6％減、同1.8％減となったことにより、２年連続の前年度割れが見込まれている。

この結果、２年連続で生産量が消費量を上回り、世界の砂糖需給は引き続き緩和傾向で推移すると見込まれている。そして、期末在庫率は前年度から6.3ポイント増加し、42.9％と見込まれている。なお、地域別の砂糖需給は、図１の通りである。

表１　世界の砂糖需給の推移

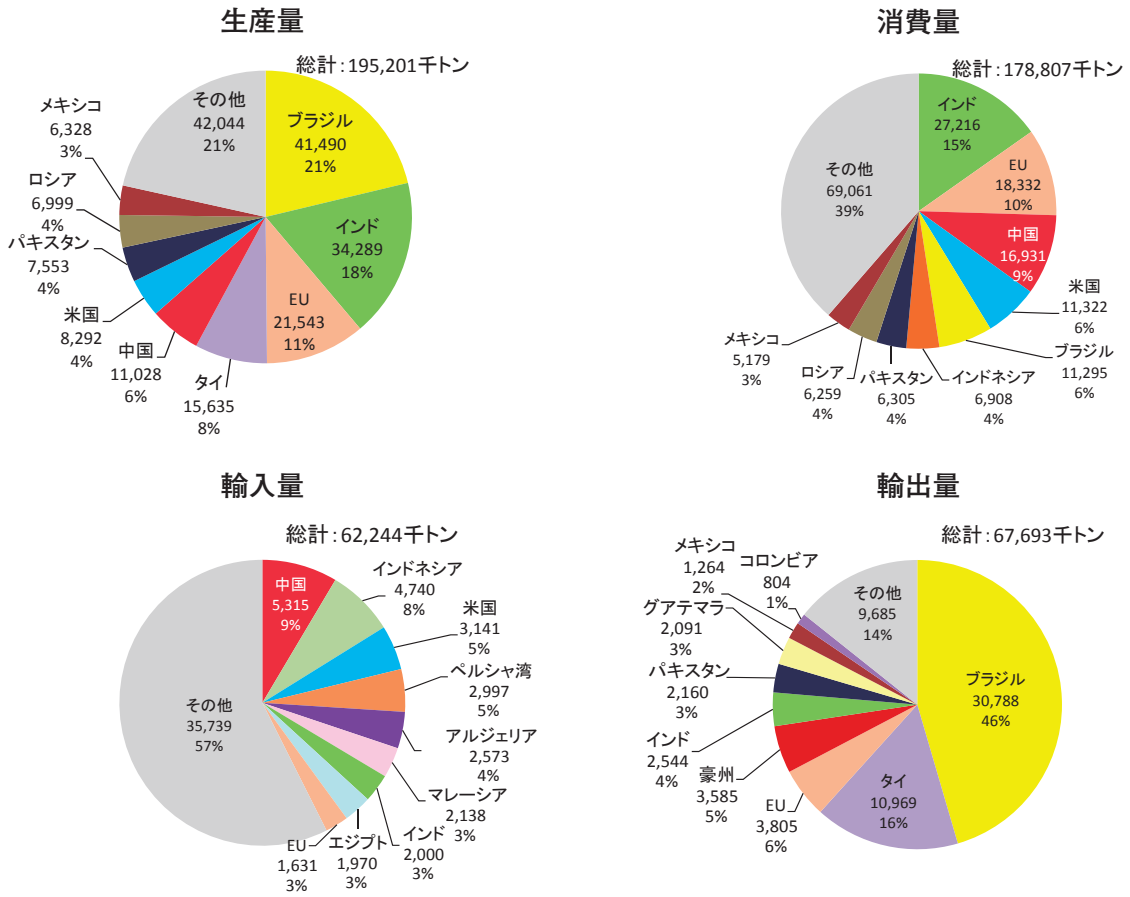
（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,982	160,315	56,023	164,755	56,244	50,321	30.5
2013/14	62,828	184,058	58,323	175,768	61,044	68,396	38.9
2014/15	68,396	183,717	59,707	177,548	62,081	72,191	40.7
2015/16	72,191	175,955	67,776	180,163	69,077	66,683	37.0
2016/17	66,683	180,577	67,755	179,536	69,746	65,732	36.6
2017/18（2018年６月予測）	65,732	195,201	62,244	178,807	67,693	76,676	42.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2014/15年度および2015/16年度は推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注４：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

２. 主要国の砂糖需給（2018年６月時点予測）

図２　主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2017/18年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：主要国の年度は、各国の砂糖年度。
注２：主要国（上位９カ国）とその他を表示。
注３：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。
注４：輸入量のうち「ペルシャ湾」は、アラブ首長国連邦、バーレーン、オマーン、カタールの４カ国を含む。

【生産量】

2017/18年度の砂糖生産量を国別に見ると、世界最大の生産国であるブラジルは、北部で乾燥した天候が続いていることに加え、原油価格の上昇によりエタノール需要が増加していることなどが影響して、4149万トン（前年度比0.4％減）とわずかな減少が見込まれている（図２）。一方、インドとタイは、潤沢な降雨による単収増加を背景に、それぞれ3429万トン（同56.9％増）、1564万トン（同46.7％増）と大幅な増加が見込まれている。

また、EUも、生産割当の廃止による域内主要生産国の増産を受け、2154万トン（同22.7％増）と大幅な増加が見込まれている。そして、中国は、２月に主要生産地の広西チワン族自治区で降霜が観測されたものの、作付面積が増加したことから、1103万トン（同11.5％増）とかなりの増加が見込まれている。

【輸入量】

中国とインドは、国内生産量の大幅な増加を受け輸入需要が減少するとみられることから、それぞれ532万トン（前年度比8.8％減）、200万トン（同18.6％減）と減少が見込まれている。また、インドネシアは、474万トン（同17.4％減）と前年度を大幅に下回り、第２位に後退するとみられている。

一方、米国は、生産量が増加しているものの、一人当たり消費量の増加に伴う需要増を受け、314万トン（同6.7％増）とかなり増加すると見込まれている。

【消費量】

最大消費国のインドでは2722万トン（前年度比2.4％増）、中国では1693万トン（同0.5％増）、インドネシアでは691万トン（同3.2％増）と、経済成長著しいアジア圏を中心に、それぞれ増加が見込まれている。一方で、大消費地域の一つであるＥＵやブラジルでは、それぞれ1833万トン（同2.6％減）、1130万トン（同1.8％減）と前年度をわずかに下回ると見込まれている。

【輸出量】

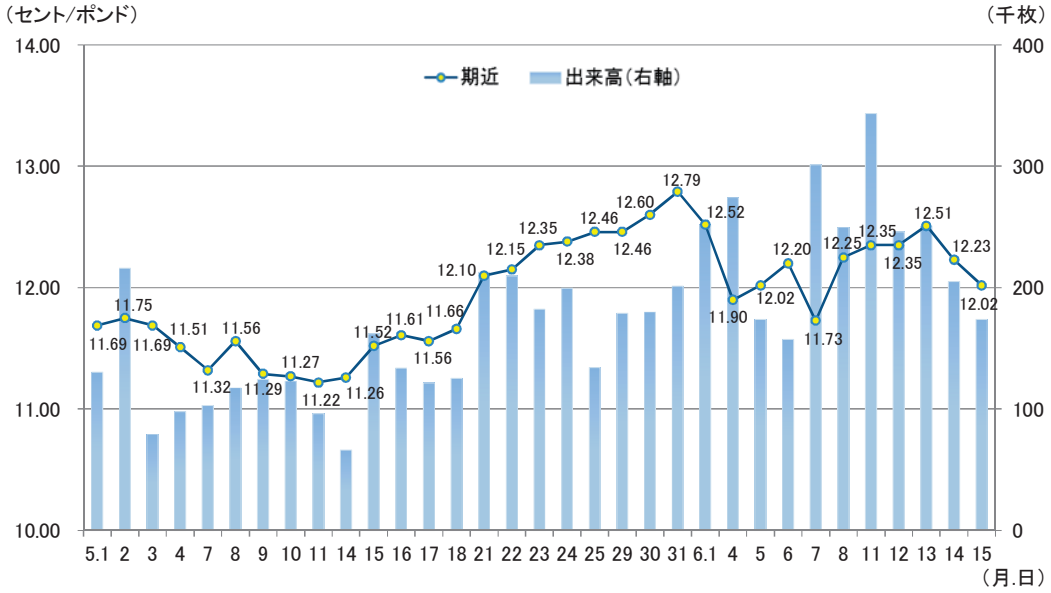
最大輸出国であるブラジルは、生産量がわずかに減少するものの、国内消費の減少もあり、輸出量は3079万トン（前年度比2.2％増）とわずかな増加が見込まれている。インドやパキスタンでは、国内砂糖供給のダブつきを抑制するために輸出関税が撤廃されたことなどもあり、それぞれ254万トン（同13.9％増）、216万トン（同2.8倍）と増加が見込まれている。タイについても、ここ２年の乾燥した天候が改善したことで生産量が増加するとの見通しを受け、1097万トン（同48.4％増）と大幅な増加が見込まれている。そして、EUも、生産割当の廃止に伴い輸出上限が撤廃されたことから、381万トン（同2.5倍）と大幅な増加が見込まれている。

一方、豪州は、2017年３月のサイクロン被害に伴う生産減を受け、359万トン（同10.5％減）とかなり減少すると見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（5/1 ～ 6/15）
～ストライキの影響などで一時的に上昇も、6月に入り下落基調～

図３　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近７月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近７月限（がつぎり））の2018年５月の推移を見ると、インド政府がサトウキビ生産者に対し、出荷量に応じた補助金を交付する計画を承認したとの報道を受け、供給過剰への懸念から、３日以降下落が続き、７日には１ポンド当たり11.32セント（注１）まで値を下げた（図３）。翌日は買い戻しの動きが入り反発したものの、その後、11日には同11.22セントまで値を下げる展開となった。

週明けの14日は、ブラジルでの降雨による、収穫遅れの懸念から小幅に上昇した。翌15日には、インド政府により砂糖の調整保管が実施されるとの報道などを受け、買い戻しの動きが強まり、同11.52セントまで上昇した。さらに21日には、ブラジルでトラック運転手らによるストライキが実施され、物流が一時的に混乱し供給不安が高まったことから、同12.10セントまで上昇した。上昇はその後も続き、31日には同12.79セントまで値を上げた。

６月に入ると、ブラジルのストライキが収束し、主産地での収穫作業が再開したことから、砂糖の世界的な供給過剰懸念が再燃したことで下落に転じ、７日には同11.73セントまで値を下げた。その後、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）（注２）が公表した５月後半のサトウキビ圧搾量が、市場の予想を下回ったことを受け、11日には同12.35セントまで反転した。しかし、その後は、引き続き米ドル高・レアル安で推移する為替相場の影響を受け、15日には同12.02セントへ続落した。

（注１）１ポンドは約453.6グラム、セントは１米ドルの100分の１。
（注２）ブラジル全体の砂糖生産量の９割を占める中南部地域を区域としている団体。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年６月時点予測）

本稿中の為替レートは2018年５月末日TTS相場の値であり、１米ドル＝110円（109.70円）、１ユーロ＝128円（128.23円）、１インド・ルピー＝1.77円、１ブラジル・レアル＝29.41円、１元＝17.29円、１ポンド＝149円（148.56円）である。

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：857万ha（前年度比1.1％増）
生 産 量：６億4086万トン（同1.7％減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：4149万トン（同0.4％減）
輸出量：3079万トン（同2.2％増）

2017/18年度、砂糖生産量はわずかに減少、輸出量はわずかに増加の見込み

2017/18砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、前月予測からわずかに上方修正（0.1％増）され、857万ヘクタール（前年度比1.1％増）とわずかな増加が見込まれている。しかし、サトウキビ生産量は、北東部の乾燥した天候の影響などから６億4086万トン（同1.7％減）とわずかな減少が見込まれている（表２）。

砂糖生産量は、北東部では前年度比18％近い減産が見込まれることから、ブラジル全体では4149万トン（同0.4％減）とわずかな減少が見込まれている。世界的な供給過剰に対する懸念の高まりを受け、国際価格が下落基調にある中、砂糖輸出量は、国内消費量の減少に伴い、3079万トン（同2.2％増）とわずかな増加が見込まれている。

なお、2018/19年度の砂糖生産量は、エタノール需要の増加を受けてエタノール生産との競合が高まり、3500万トン程度まで減少すると見込まれている。

ストライキの影響は限定的も、製糖業界は懸念

５月21日から始まったトラック運転手らによるストライキ(注)は５月末、政府が燃料価格の引き下げや減税といった支援策を表明したことで、ようやく収束する見通しとなった。

一連のストライキによって、港湾の粗糖在庫がほぼ底を突いたほか、製糖工場の操業停止やサトウキビ収穫の遅滞といった影響が発生し、５月後半のサトウキビ生産量とエタノール生産量には、平年比１～２割程度の減少が見られた。しかしUNICAは、今年度の粗糖生産を大きく減少させるほどの影響はないとしている。

一方で、現地報道によると、ディーゼル油価格は引き下げられたものの、物流業界の要請を受け、輸送賃が２割近く引き上げられると見込まれている。世界的な供給過剰で粗糖の輸出価格が低迷する中、このようなコスト上昇が生じると、製糖企業の収益悪化につながる可能性がある。加えて、ディーゼル油価格の引き下げによってエタノールが割高になると、エタノール需要が低下し、結果的に、製糖業者のエタノール増産意欲が減退する可能性も示唆されている。

（注）ディーゼル油価格の値上げに抗議するトラック運転手らが５月21日から始めたストライキは、全土の高速道路や主要な幹線道路を封鎖する大規模なものへと発展し、物流網のみならず社会・経済の混乱を招いた。詳細は機構Webページ掲載「海外情報」を参照。
（https://alic.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002230.html）

製糖業者、環境汚染で罰金

サンパウロ州環境公社は、中国資本系列のMeridiano Mill社に対し、サトウキビからエタノールを抽出する際に発生する蒸留廃液（vinasse）の流出によって河川を汚染したとして、19万2000レアル（565万円）の罰金を科した。

現地報道によると、同社の配管の一部が破損し、敷地外の河川に蒸留廃液が流出したことで、河川の酸素濃度が低下し魚が大量死したとされる。同社は、魚の大量死については把握していなかったとしているが、今回の事件を受け、早急に検証チームを設置し、環境への影響を最小限に食い止めるよう全力を尽くすとしている。

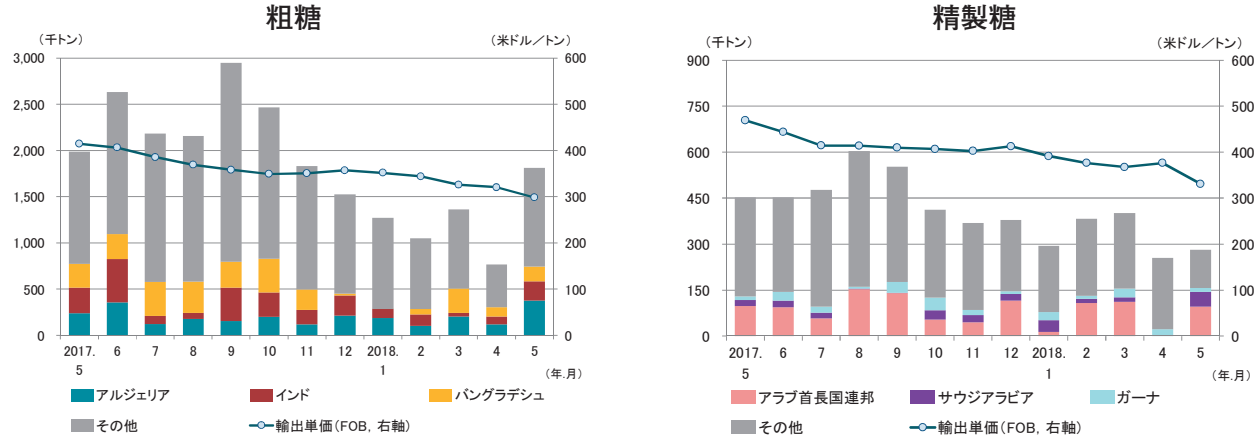
表２　ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（６月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,784	8,188	8,474	8,560	8,570	1.1
サトウキビ生産量		632,127	666,824	651,841	640,313	640,860	▲ 1.7
砂糖	生産量	38,147	36,472	41,670	41,470	41,490	▲ 0.4
	輸入量	1	1	1	2	2	96.2
	消費量	12,625	12,057	11,502	11,295	11,295	▲ 1.8
	輸出量	24,871	26,023	30,117	30,788	30,788	2.2
	期末在庫量	2,346	739	791	180	200	▲ 74.7
	期末在庫率	18.6	6.1	6.9	1.6	1.8	5.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

インド

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：483万ha（前年度比11.7%増）
生 産 量：３億9272万トン（同28.3%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3429万トン（同56.9%増）
輸出量： 254万トン（同13.9%増）

2017/18年度、砂糖生産量は大幅増、輸出量もかなり増加の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ生産については、収穫面積は483万ヘクタール（前年度比11.7%増）とかなりの増加が見込まれる上、生産量は、十分な降雨を得られたことで、３億9272万トン（同28.3%増）と大幅な増加が見込まれている（表３）。

砂糖生産量は、サトウキビ生産の増加を受け、3429万トン（同56.9%増）と大幅に増加すると見込まれている。砂糖輸出量は、前月予測からは25%近く大幅に下方修正されたものの、生産量の増加に伴う在庫の積み上がりを背景に、254万トン（同13.9%増）とかなりの増加が見込まれている。

砂糖300万トンの調整保管を実施

インド政府は５月22日、国内砂糖供給のダブつきを抑制するために、300万トンの砂糖（年間生産量の１割程度に相当）を１年間保管すると発表し、調整保管が行われることとなった。実施に当たっては、製糖業者が保管に要した経費を政府が補助するとしており、121億5000万ルピー（215億550万円）の予算措置を行う見込みである。

これまでインド政府は、国内砂糖価格の下落を防ぐために、サトウキビ出荷量１トン当たり55ルピー（97円）の補助金の直接交付や、砂糖の最低販売価格の設定などを行ってきた。この他にも、需給の引き締めを図るために輸出関税を撤廃したりするなど、さまざまな対応策を矢継ぎ早に打ち出してきたものの、期待する効果が得られなかったことから、今回、調整保管の実施に至ったとみられる。

また、詳細については言及されていないが、政府は今後、製糖企業の利払いの肩代わりや、負債償還期限の延長により、製糖企業の経営を支えるとともに、バガス、糖蜜などの副産物やエタノールに対する付加価値税（消費税に相当）を減税して需要喚起を図るなど、砂糖需給の引き締めを図るべくさらなる対策を打ち出すとしている。

中国への砂糖輸出に活路

６月１日付けの現地報道によると、インド製糖協会（ISMA）は、中国の製糖企業25社と、インドから中国へ向けた砂糖輸出の可能性について協議したとみられる。現在、中国が設定している砂糖輸入関税について、ISMAは削減の可能性を言及している。

この協議の１週間前に、両国首脳は非公式に会談しており、インド政府は、700万トン近い砂糖の余剰在庫のうち、150万トン余りを中国向けに輸出したいという意向を伝えたとみられる。

砂糖相場の下落、製糖業者に打撃

サトウキビの主要な産地であるウッタルプラデシュ州では、記録的な増産により、砂糖価格が下落し、製糖業者の一部では、生産者へのサトウキビ代金の支払が滞るなど、経営への影響が見られている。現地報道によると、このまま砂糖価格の低迷が続けば、次年度の操業が困難になることから、契約するサトウキビ生産者に対し、次年度の作付けを減らすよう

指示を出している製糖業者もあるという。

また、国内の銀行各社は、このまま砂糖価格の低迷が続き、製糖業者の業績に改善が見られなければ、運転資金の融資を停止するとしており、製糖業者や生産者にとって予断を許さない状況となっている。

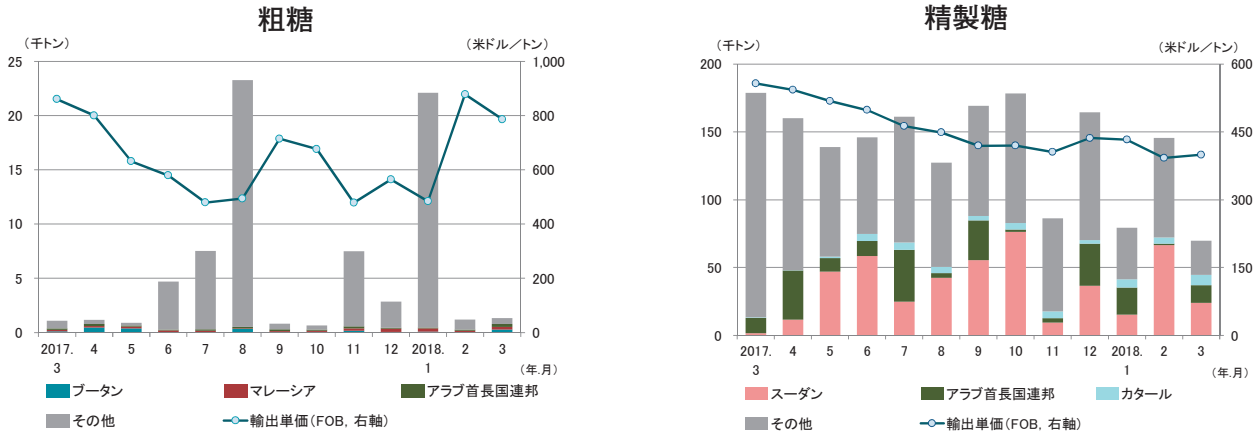
表３　インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（６月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		4,942	4,806	4,327	4,832	4,832	11.7
サトウキビ生産量		378,969	356,871	306,070	392,719	392,719	28.3
砂糖	生産量	30,529	27,091	21,848	34,289	34,289	56.9
	輸入量	1,509	2,146	2,458	2,000	2,000	▲ 18.6
	消費量	25,920	26,784	26,568	27,432	27,216	2.4
	輸出量	2,468	3,955	2,233	3,413	2,544	13.9
	期末在庫量	9,871	8,370	3,874	9,318	10,404	168.5
	期末在庫率	38.1	31.2	14.6	34.0	38.2	23.6 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

中　国

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：123万ha（前年度比4.5%増）
生 産 量：7678万トン（同4.2%増）
【てん菜】
収穫面積：19万ha（同10.7%増）
生 産 量：959万トン（同8.7%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1103万トン（同11.5%増）
輸入量：　532万トン（同8.8%減）

2017/18年度、砂糖生産量はかなり増加、輸入量はかなり減少の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）においては、サトウキビについて、収穫面積は123万ヘクタール（前年度比4.5%増）、生産量は7678万トン（同4.2%増）と、ともにやや増加が見込まれている（表

4）。てん菜については、収穫面積は19万ヘクタール（同10.7%増）、生産量は959万トン（同8.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。

砂糖生産量は、依然として消費量を大きく下回る水準ではあるものの、1103万トン（同11.5%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖輸入量は、3～4月にかけて輸入量が増加したこともあり、前月予測からは上方修正されたものの、砂糖に対する追加関税措置（2017年5月22日から3年間、関税割当〈枠内税率15%〉の枠外で輸入される砂糖に対し、反ダンピング関税(注)を課している）の影響を受け、532万トン（同8.8%減）とかなりの減少が見込まれている。

中国砂糖協会によると、2017年10月～翌年5月末の累計砂糖生産量は1030万4200トン（甘しゃ糖915万4500トン、てん菜糖114万9700トン）となった。地域別に見ると、甘しゃ糖は、広西チワン族自治区：603万トン、雲南省：206万トン、広東省：87万トンで、てん菜糖は、新疆（しんきょう）ウイグル自治区：54万トン、内モンゴル自治区：48万トン、黒竜江省：7万トンとなっている。

（注）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に損害が生じ、またはその恐れがあるとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率に45%の追加関税を課した。ただし、2年目は40%、3年目は35%と段階的に引き下げられる予定となっている。なお、追加関税について、開発途上の約190の国・地域（フィリピンやパキスタンなど以前から中国と関係の深い国も含む）については、一定の条件を満たせば除外される。

砂糖の国内外価格差、拡大

中国農業農村部は「中国農産物需給動向分析月報」の中で、2018年1～5月までの砂糖価格や輸入の動向について発表した。

これによると、2018年4月の砂糖の国内平均価格は1トン当たり5609元（9万6980円）と、前年同月比15.3%安、前月比2.9%安となった。また、ブラジル産砂糖の輸入価格（到着港税負担後、関税割当内）は、国際市況の下落を受け、同3185元（5万5069円）と前月比5.4%安となり、国内価格との価格差は拡大した。

輸入量については、1、2月は前年同月を大幅に下回っていたものの、3月以降急増し、4月は47万トン（前年同月比2.4倍）と大幅な増加を記録した。

なお、砂糖相場は低迷しているものの、サトウキビの主産地である広西チワン族自治区や雲南省におけるサトウキビ生産者の作付け意欲は、引き続き安定しているとしている。

表4　中国の砂糖需給の推移

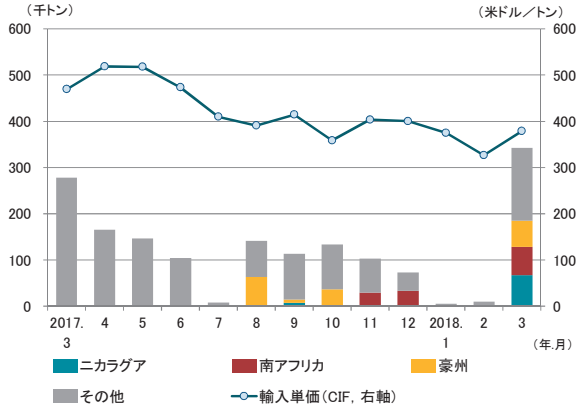
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（5月予測）	2017/18（6月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,457	1,311	1,178	1,231	1,231	4.5
サトウキビ生産量		85,037	74,950	73,690	76,780	76,780	4.2
てん菜収穫面積		130	136	168	186	186	10.7
てん菜生産量		6,416	6,880	8,820	9,590	9,590	8.7
砂糖	生産量	11,412	9,405	9,890	11,028	11,028	11.5
	輸入量	6,759	7,910	5,826	5,248	5,315	▲ 8.8
	消費量	16,680	16,847	16,847	16,931	16,931	0.5
	輸出量	71	181	146	133	133	▲ 8.9
	期末在庫量	11,638	11,926	10,649	9,819	9,928	▲ 6.8
	期末在庫率	69.8	70.8	63.2	153.5	153.5	90.3 ポイント増

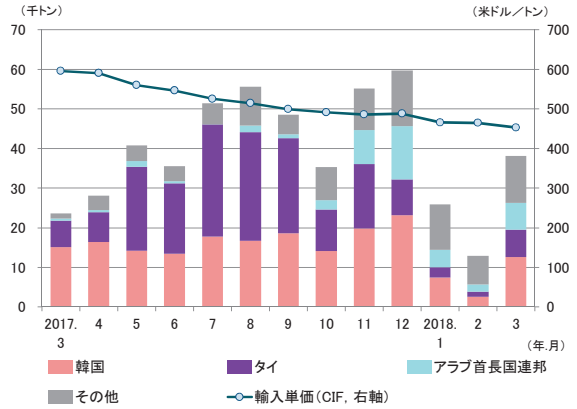
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

E U

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：173万ha（前年度比18.2%増）
生 産 量：１億3459万トン（同25.9%増）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：2154万トン（同22.7%増）
輸出量： 381万トン（同2.5倍）

2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

生産割当廃止後の初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌９月）は、生産意欲の増進を受け、てん菜の収穫面積は173万ヘクタール（前年度比18.2%増）、生産量は１億3459万トン（同25.9%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表５）。

これにより、砂糖生産量は2154万トン（同22.7%増）、輸出量は381万トン（同2.5倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

なお、2018/19年度のてん菜生産については、春先の低温による作付けの遅れが懸念されていたが、天候の好転により、遅れは回復しつつあるとしている。

大手製糖業者、増収増益を記録

ドイツの大手製糖業者であるSudzucker社は５月22日、2017/18年度（３月～翌２月）の業績について、売上高は前年度比7.8%増の70億ユーロ（8960億円）、営業利益は同4.5%増の４億4500万ユーロ（569億6000万円）と発表した。これは、2017年12月時点の同社見込みを上回る結果となった。中でも製糖部門の売上高は、てん菜集荷量の増加を受け、30億1700万ユーロ（3861億7600万円、同8.7%増）とかなり増加した。

同社はこれについて、年度終盤は砂糖相場の低迷による売上減も記録されたものの、上半期の業績が好調だったことから、全体としては前年度を上回る結果になったとしている。今後の見通しについては、世界的な供給過剰に加え、ユーロ高米ドル安で推移する為替相場の影響から、EU産の砂糖は、輸出市場では不利な環境に置かれることになるものの、今後、需給環境は徐々に回復するだろうと楽観視している。

英国、糖類を含む飲料への課税を開始

英国公衆衛生庁は2018年４月、糖類を含む飲料(注)に対する課税を開始すると発表した。また、５月には、糖類を含む飲料や乳飲料、植物性の代替ミルクの糖類含有率とカロリーについて、2021年に向けた具体的な削減目標を示した（表６）。

４～18歳までの児童の１日当たり糖類摂取量が、同庁が定めている基準の２倍を超えていることなどから、同庁は、児童の糖類摂取経路において、比較的大きなシェアを占める「飲料」に対し、糖類含有率の上限を設け、児童の健康増進を図りたいものとみられる。飲料の糖類含有率を減らしても、飲料の摂取量自体が増加してしまえば意味がないことから、同庁は、１容器当たりのカロリーの上限を設けたとみられる。こうした上限の設定は、アイスクリームやヨーグルトといった乳製品ですでに導入実績があり、糖類摂取量の減少に効果を発揮している。

今後、飲料メーカーは、①糖類含有率を下げる②代替甘味料を用いる③容器の容量を減らす－などの対応を迫られることになるとみられる。

（注）対象となるのは、100ミリリットル当たり５グラム以上の糖類（スクロース、グルコース、フラクトース、ラクトース、ガラクトース）を含む飲料。

表５　EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（６月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,602	1,364	1,463	1,720	1,729	18.2
てん菜生産量		129,154	94,986	106,913	134,402	134,588	25.9
砂糖	生産量	19,362	14,937	17,554	21,491	21,543	22.7
	輸入量	3,378	3,651	3,115	1,631	1,631	▲ 47.7
	消費量	19,620	19,481	18,828	18,215	18,332	▲ 2.6
	輸出量	1,558	1,501	1,510	3,805	3,805	152.0
	期末在庫量	4,307	1,913	2,244	3,359	3,272	45.8
	期末在庫率	22.0	9.8	11.9	18.4	17.8	5.9 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

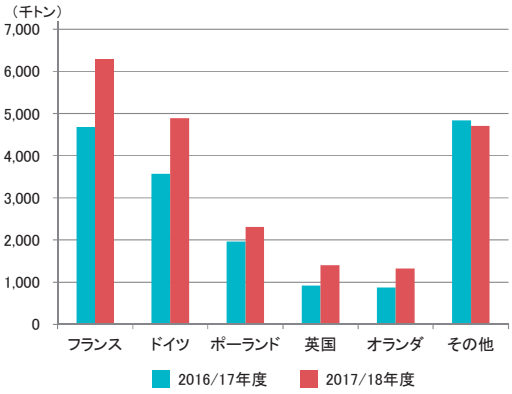
表６　課税額と削減目標

100ml当たり糖類含有量	１ℓ当たり課税額
５グラム以上～８グラム未満	0.18ポンド（26.8円）
８グラム以上	0.24ポンド（35.8円）

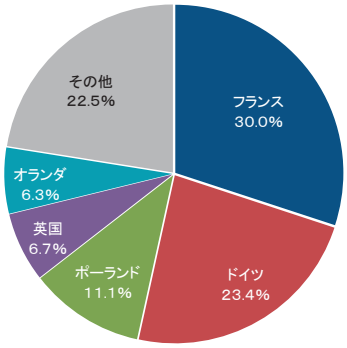
	糖類を含む飲料	乳飲料または植物性の代替ミルク
糖類含有率（2015年比）	５％減	20％減
１容器当たりカロリーの上限	150キロカロリー	300キロカロリー

資料：英国公衆衛生庁
注：「糖類を含む飲料」には、果汁100％のジュースは含まれない。「植物性の代替ミルク」は、大豆や大麦、麻などから作られた飲料。

（参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合（2018年４月時点）



資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2017/18年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向（2018年６月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この２カ国で９割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。本稿中の為替レートは2018年５月末日TTS相場の値であり、１豪ドル＝84円（84.35円）である。

豪　州

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：37万ha（前年度比1.4%増）
生 産 量：3345万トン（同8.4%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：448万トン（同7.0%減）
輸出量：359万トン（同10.5%減）

2017/18年度、サトウキビの減産に伴い、砂糖生産量、輸出量ともに減少の見込み

2017/18砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は37万ヘクタール（前年度比1.4%増）とわずかな増加が見込まれている。一方､生産量は、2017年３月に上陸したサイクロンにより、少なくとも1300ヘクタール、サトウキビ生産量に換算して50万トン程度が被害を受けたとみられる上、前年度が記録的な高収量であったことから、3345万トン（同8.4%減）と前年度比で見るとかなりの減少が見込まれている（表７）。

これに伴い、砂糖生産量は448万トン（同7.0%減）とかなりの減少が見込まれている。輸出量についても、生産見通しの下方修正に加え、中国向けな

どの減少を受け、359万トン（同10.5％減）とかなりの減少が見込まれている。

現地では、サトウキビ生産量の減少と国際相場の低迷を受け、「サトウキビ生産者は二重の苦しみを味わっている」と報じられている。

糖類摂取の低減に対する関心高まる

５月18日付けの現地報道によると、豪州のコカ・コーラ・アマティル社はソフトドリンクの調合を変更し、糖類の含有率を減らすこととした。豪州では、肥満の増加が社会問題となっており、同社は、2020年までに砂糖使用量を減らしたり、ステビアなどの代替甘味料を用いたりすることで、飲料の砂糖含有量を１割近く減らしたいとしている。

市民団体は、1980年には全人口のわずか１割程度であった肥満人口が、現在は全人口の３割強にまで増加したと警鐘を鳴らしており、政府に対して規制の制定を強く訴えている。

表７　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（６月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		378	382	368	373	373	1.4
サトウキビ生産量		32,361	34,941	36,506	33,459	33,447	▲ 8.4
砂糖	生産量	4,547	4,889	4,816	4,572	4,481	▲ 7.0
	輸入量	164	164	67	30	30	▲ 55.5
	消費量	1,187	1,196	1,172	1,125	1,125	▲ 4.0
	輸出量	3,412	4,384	4,004	3,675	3,585	▲ 10.5
	期末在庫量	1,795	1,267	974	777	775	▲ 20.5
	期末在庫率	151.2	105.9	83.1	69.0	68.9	14.2 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タ　イ

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：175万ha（前年度比11.0％増）
生　産　量：１億3490万トン（同45.1％増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1564万トン（同46.7％増）
輸出量：1097万トン（同48.4％増）

2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、キャッサバなどの他作物からの転作を受け、175万ヘクタール（前年度比11.0％増）とかなり大きな増加が見込まれている。生産量は、２年続いた干ばつからの回復による単収の増加などを受け、１億3490万トン（同45.1％増）と大幅な増加が見込まれている（表８）。

砂糖生産量は、好天による製糖歩留まりの向上もあり、1564万トン（同46.7％増）と大幅な増加が見込まれている。輸出量については、国際相場の低迷などを受け、前月予測から下方修正されたものの、1097万トン（同48.4％増）と大幅な増加が見込まれている。

価格低迷を受け、エタノール仕向けを優先

５月16日付けの現地報道によると、サトウキビと砂糖の国内流通を管理しているサトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）は、製糖業者に割り当てた

輸出向け粗糖枠のうち、50万トン余りを、エタノールをはじめとしたバイオ燃料製造に仕向けることを承認した。砂糖の国際相場の低迷が続く中、タイ国内におけるバイオ燃料の需要が増加していることが背景にある。

現地報道によると、輸出に仕向けられる粗糖はおよそ1100万トンで、今回の仕向け変更は、その４％強に相当する量となる。バイオ燃料の原料の一つであるキャッサバの価格が、生産量の減少に伴いこの１年で約2.5倍と急上昇しており、粗糖に対する需要は高まっている。これを受け、バイオ燃料に仕向けられる粗糖の割当数量は、前年度は20万トン、今年度は30万トンと増加している。

なお、タイの現行法では、エタノール原料は糖蜜、粗糖、キャッサバに限定されている。現地では、サトウキビ圧搾汁からのエタノール製造（注）を認めるよう要請する動きが強まっており、OCSBは、来年には法改正が行われ、圧搾汁からのエタノール製造が可能となる見込みであるとしている。

（注）サトウキビ圧搾汁からのエタノール製造は、カドミウム汚染土壌地域や実験用など、例外的に認められた一部を除き、現在は認められていない。

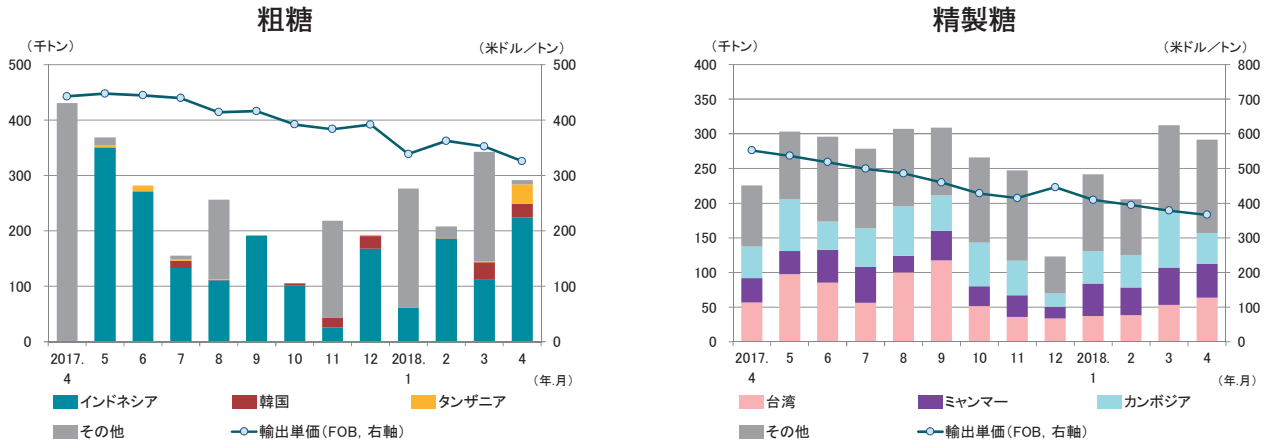
表８　タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（６月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,535	1,644	1,578	1,734	1,752	11.0
サトウキビ生産量		105,959	94,047	92,951	133,530	134,900	45.1
砂糖	生産量	12,036	10,402	10,657	15,635	15,635	46.7
	輸入量	0	1	0	1	1	558.4
	消費量	3,262	3,272	3,283	3,289	3,672	11.8
	輸出量	8,186	7,932	7,393	11,352	10,969	48.4
	期末在庫量	4,771	3,970	3,951	4,946	4,946	25.2
	期末在庫率	146.3	121.3	120.3	150.4	134.7	14.4 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

グアテマラ

2017/18年度（11月～翌10月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：26万ha（前年度同）
生 産 量：2678万トン（前年度比3.6%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：297万トン（同1.5%増）
輸出量：209万トン（同3.4%減）

2017/18年度、砂糖生産量はわずかに増加も、輸出量は減少の見込み

2017/18砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビ収穫面積は26万ヘクタールと前年度から横ばい、生産量は2678万トン（前年度比3.6%増）とやや増加すると見込まれている。砂糖生産量は、サトウキビ生産量の増加を受け、297万トン（同1.5%増）とわずかな増加が見込まれているが、砂糖輸出量は209万トン（同3.4%減）と前年度をやや下回ると見込まれている（表９）。

火山の大噴火により、サトウキビ生産への影響も懸念

グアテマラ南部に位置するフエゴ山が６月３日、噴火した。海抜１万メートル近くまで噴煙が上がり、溶岩や火砕流が島南部に流出した影響などにより、死者73名、行方不明者192名と報じられている（６月５日現在）。

通常の栽培暦であれば、すでにサトウキビの収穫時期が終了していることもあり、今のところ、グアテマラ砂糖産業協会をはじめとした砂糖産業界からの声明などは発表されていない。しかし、同国のサトウキビ生産地は南部沿岸に集中しており、今後のサトウキビ生産への影響が懸念される。

表９　グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（６月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		272	269	256	256	256	0.0
サトウキビ生産量		28,268	27,987	25,835	26,776	26,776	3.6
砂糖	生産量	3,208	3,039	2,930	2,963	2,974	1.5
	輸入量	0	0	0	0	0	—
	消費量	805	839	861	877	879	2.2
	輸出量	2,531	2,210	2,164	2,083	2,091	▲ 3.4
	期末在庫量	867	858	764	767	768	0.5
	期末在庫率	107.7	102.3	88.7	87.5	87.3	1.4 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。